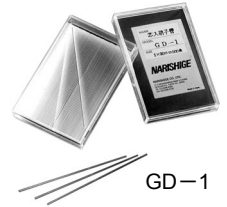


ガラス管の違い

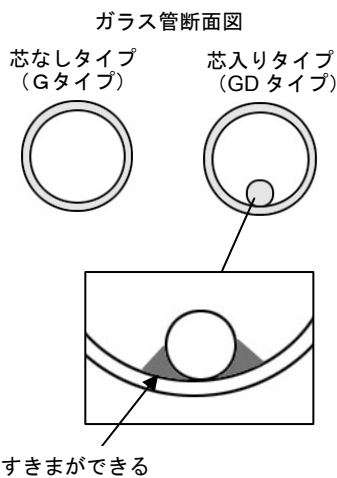
ガラス管にも沢山の種類がありますが、どこが違うのか知っていますか？
今回はガラス管の違いを特徴と合わせてご紹介します。

◆◆ 種類 ◆◆

型式で言うと、「G」のノーマルタイプ、「GD」の芯入りタイプ、「GC」の殺菌済みタイプ、「GDC」の芯入り殺菌済みタイプがあります。形状では、各種1mm、1.2mm、1.5mmとあり、ノーマルでは2mmと3mmタイプがあります。また1mm管には、通常ガラス管より内径が広い肉薄タイプ、中が空洞な管ではなく棒状タイプがあります。



◆◆ 芯入りガラス管の特徴 -GDタイプ- ◆◆



ガラス管の大きな違いに、ガラス管の中に芯が入っているか、いないかがあります。

ガラス管は内部が真円の為、ガラス針の先端径が細くなる程、表面張力の作用で薬液が先端まで入っていきません。

そこで芯入りガラス管は、ガラス管の内側にガラス棒を取り付けることで、2つのすきまが作られます。その出来たすきまによって毛細管現象の作用が生まれ、先端まで容易に薬液を導く事ができます。つまり、中の細い管で出来るすきまで、表面張力を壊し、液体を流れやすくするのであります。

目安として、針の先端径が1 μ m以下ですと、芯入りガラス管を使用しないと薬液が入らない、と言われております。

◆◆ 殺菌済みガラス管の特徴 -GCタイプ- ◆◆

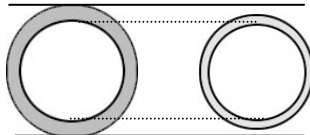
GDC-1



通常、ガラス管は超音波洗浄をしてパッケージをしますが、殺菌済みガラス管は更に、紫外線に当てて殺菌を行い、5本ずつ真空パックされています。このため空気に触れる事によるホコリ等の付着や、手垢による汚れの付着を最小限に抑えることが出来ます。汚れを嫌う実験には適しています。

◆◆ 肉薄ガラス管の特徴 -G-100- ◆◆

通常ガラス管 肉薄ガラス管



ピペット先端部比較図

通常ガラス管は内径が外径の60%に対し、肉薄ガラス管は内径が外径の80%になります。その為、ガラス管を引いた時、先端の内径が同じ大きさのピペットを製作した場合、肉薄ガラス管は通常ガラス管より肉薄な分、外径が細く出来上がります。それによって細胞に対する傷がより小さく抑えられます。しかし強度が弱くなりますので加工は難しくなります。

◆◆ ガラス棒の特徴 -G-1000- ◆◆

ガラス棒は中が空洞にはなっていないので強度が強く、細胞に孔を開ける、付着してくる細胞を削るなどといった作業をするのに適しています。

ナリシゲカスタマーサポートセンター

TEL: (+81) 03-3308-8232

E-MAIL: sales@narishige.co.jp